

できますか、それともできませんか？

2012年8月更新



Japanese

このパンフレットは、**Fire Danger Periods**(火事危険期間)と屋外での火の使用が法的に制限されている**Total Fire Ban**(火気厳禁)が発令されている期間に、できることとできないことについて詳しく説明しています。

CFAは、暑い期間の始めに、地方自治体による**Fire Danger Periods**(火事危険期間)を宣言します。これらの制限は、それ以前に取り消されたり、変更されない限り、**5月1日**まで実施されます。1年を通じて、州立森林、国立および地域の公園、および保護された公共の土地で、火気制限が施行されます。これらの地域での火気制限に関するアドバイスについては、地元の**DSE**および**Parks Victoria**まで連絡してください。

Total Fire Bans(火気厳禁)は、火がすばやく広がって制御が困難となる可能性の高い日に**CFA**によって宣言されます。**Fire Danger Periods**(火事危険期間)と**Total Fire Ban**(火気厳禁)の発令中に不法に火を焚いた場合の罰則として、高額な罰金または禁固刑が課される可能性もあります。






できますか、それともできませんか？	Fire Danger Period (火事危険期間)	Total Fire Ban Days (火気厳禁日)
<p>バーベキュー、軽いキャンプファイヤー、または暖房目的で火を焚くことができますか？</p> 	<p>はい</p> <p>ただし次の場合に限りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 風速が時速10キロメートル未満である ✓ 焚き火が適切に組み立てられた野外炉または最低30cmの溝に完全に封じ込められている ✓ バーベキューの四方3メートル以内から可燃性の物質が完全に除去されている ✓ 火の容量が1四方メートルを越えず、使用される固定燃料の大きさと寸法は、目的に必要な最小限の量である ✓ 点火している間常時そばに付いている人がおり、消火できる能力と手段を備えている ✓ 人が立ち去る前に完全に消火されている。 <p>CFA法の規定によれば、「適切に組み立てられた野外炉」とは、火の周囲が完全に封じ込められるように、石、金属、コンクリートまたはその他の不燃性の素材でできている野外炉のことです。</p> <p>商用のバーベキュー炉は、正しく組み立てられた野外炉と見なされます。</p>	<p>はい</p> <p>固定器具のバーベキュー炉：</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ガスまたは電気を燃料とし、石、金属、コンクリートまたはその他の非可燃性の材質に組み込まれており、調理専用で設計されている ✓ ガスまたは電気のみを使用し、調理専用目的で設計され、商用目的で製造されている（ポータブルバーベキューを含む）点火中には、以下の条件に従って安定した位置に設置されている： <ul style="list-style-type: none"> ✓ バーベキュー炉の四方3メートル以内から可燃性の物質が完全に除去されている ✓ 送水設備に接続されたホースまたは最低10リットルの水が入っている容器が手元に置いてある ✓ 点火している間常時そばに付いている人がおり、消火できる能力と手段を備えている ✓ 人が立ち去る前に完全に消火されている。 <p>いいえ</p> <p>Total Fire Ban Days(火気厳禁日)には、キャンプファイヤー、暖房目的や個人使用のための火の使用は禁止されます。Total Fire Ban Days(火気厳禁日)には、固体燃料と液体燃料を使うバーベキュー炉やオーブンの使用も禁止されます。</p>
<p>私は配膳業、またはコミュニティ組織/慈善組織/資金集めをする組織を運営しています。屋外会合で使うバーベキュー炉または回転肉焼き器を設備して火をつけることができますか？</p> 	<p>はい</p> <p>ただし次の場合に限りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 風速が時速10キロメートル未満である ✓ 焚き火が適切に組み立てられた野外炉または最低30cmの溝に完全に封じ込められている ✓ 器具（バーベキュー炉または回転肉焼き器）の四方3メートル以内から可燃性の物質が完全に除去されている ✓ 火の容量が1四方メートルを越えず、使用される固定燃料の大きさと寸法は、目的に必要な最小限の量である ✓ 点火している間常時そばに付いている人がおり、消火できる能力と手段を備えている ✓ 人が立ち去る前に完全に消火されている。 	<p>はい</p> <p>ただし、CFAまたはMFBによって発行される書面の許可証を取得し、許可証に記載される条件に従う場合には使用が許可されます。</p> <p>コミュニティ組織、慈善組織または資金集めに関与している組織（たとえば、資金集めをしている学校やスポーツ関係のグループ）は、事業運営目的で他の人の食事を調理するために火を焚くための許可証を申請できます。これらの許可証はCFA地域事務所、CFA本部またはMFBゾーン事務所の自由裁量で発行されます。</p> <p>地方自治体の火事防止事務官は、この許可証を発行できません。</p>



できますか、それともできませんか?

2012年8月更新



できますか、それともできませんか?	Fire Danger Period (火事危険期間)	Total Fire Ban Days (火気厳禁日)
<p>草、低木、刈り株、雑草、やぶまたはその他の植物を焼き払うために野外で火をつけることができますか?</p> 	<p>はい</p> <p>ただし次の場合に限りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 政府当局の火事防止事務官、地方自治体の火事防止事務官、またはCFA地域事務所が発行する書面の許可証を取得している ✓ その許可証の条件に従う ✓ 点火している間常時そばに付いている人がおり、消火できる能力と手段を備えている ✓ 人が立ち去る前に完全に消火されている。 <p>多くの自治体では、スモッグ警告日または地方自治体の特定の場所や特定の時間帯での焼き払いを禁止しています。地方自治体の火事防止事務官に確認してください。</p>	<p>いいえ</p> <p>Total Fire Ban Days (火気厳禁日) には、草、低木、刈り株、またはゴミを焼き払うために野外で火をつけることは禁止されています。</p> <p>地方自治体の火事防止事務官によって発行された許可証はすべて Total Fire Ban Days (火気厳禁日) の期間中には停止されます。</p>
<p>農作物、草、低木、雑草、やぶまたはその他の植物に接触する場所で、車を運転できますか?</p> 	<p>はい</p> <p>ただし、車に効率的な消音装置（マフラーなど）が備え付けられており、消音装置を通じて排気がエンジンからすべて出される場合に限りです。</p> <p>Total Fire Ban Day (火気厳禁日) 以外でも、高熱の排気システムによって発生するリスクのため、暑い日や乾燥した日には、乾燥した植物の上を車で運転するのは避けてください。</p>	<p>はい</p> <p>ただし、車に効率的な消音装置（マフラーなど）が備え付けられており、消音装置を通じて排気がエンジンからすべて出される場合に限りです。</p> <p>乾燥した植物と非常に高温の排気システムによって引き起こされる火事の危険のため、可能な限り避ける必要があります。</p>
<p>動力のこぎり、植木または草刈り器、または芝刈り機を使用できますか?</p> 	<p>はい</p> <p>動力のこぎり、植木または草刈り器、あるいは芝刈り機を緑色植物に対して制限なく使用できます。</p> <p>ただし、緑色でない植物に対して使用する動力のこぎり、植木または草刈り器、あるいは芝刈り機は、次のものに限りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 火事を発生させるおそれがある故障や機械的な欠陥がない ✓ 効率的な火の粉防止器が備え付けられている ✓ 機械の最低四方3メートル以内から燃焼性の物質が完全に除去されている <p>さらに、機械の操作者が機械の使用中に常にそばに付いており、次のいずれかの防火装置を運んでいなければなりません：</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 正常に動作し、水が完全に補給され、最低でも9リットルの水を収容できる背負い噴射器最低1台 ➤ 正常に動作し、水が完全に補給され、正しい圧力が維持されている、最低でも9リットルの水を収容できる消火器（蓄圧）最低1台。 <p>上記に記載される火の粉防止器、背負い噴射器および消火器は、該当するオーストラリアの基準に準拠していなければならないことに注意してください。</p>	<p>はい</p> <p>Fire Danger Period (火事危険期間) には使用できません。</p> <p>ただし、火が発生するリスクが非常に高いため、可能であればこの作業を延期してください。</p>



できますか、それともできませんか？

2012年8月更新




できますか、それともできませんか？	Fire Danger Period (火事危険期間)	Total Fire Ban Days (火気厳禁日)
<p>以下を含む作業を行うことができますか：</p> <ul style="list-style-type: none"> > 溶接、研削、炭化、はんだ付け、ガス切断 > 蜂の巣の移動 > 蜂蜜の採集 > レールの保守 > ビチューメンの加熱？ 	<p>はい</p> <p>ただし次の場合に限りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 火花、熱い金属、火から発生するスラグを阻止するための耐火性の遮蔽または防御装置 ✓ 火が広がることのないように、作業区域の最低周辺1.5メートルから可燃性の物質を完全に除去するかまたは水で十分に濡らしておく ✓ 網状の送水設備または最低9リットルの水を収容した背負い噴射機を用意している ✓ 作業で切り取った材料および熱い材料をすべて、耐火性の入れ物に置く ✓ 点火している間常時そばに付いている人がおり、消火できる能力と手段を備えている ✓ 人が立ち去る前に完全に消火されている。 	<p>いいえ</p> <p>次の作業：</p> <ul style="list-style-type: none"> > 溶接、研削、炭化、はんだ付け、ガス切断 > 蜂の巣の移動 > 蜂蜜の採集 > レールの保守 > ビチューメンの加熱 <p>は、これらの日に適用される特別の許可証がない場合、Total Fire Ban Days (火気厳禁日) に禁止されています。これらはセクション40許可証と呼ばれます。</p> <p>場合によっては、以下の組織に対し、業務の実行、公的な娯楽目的、あるいは宗教または文化的目的のために、CFAまたはMFBがTotal Fire Ban Days (火気厳禁日)の実施中にこのような作業を許可する許可証を発行する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニティー組織、慈善組織、資金集めを行う組織 ✓ 法人、地方自治体 ✓ 業界または同業者事業 <p>これらの許可証は、CFA地域事務所、CFA本部、またはMFBゾーン事務所によって発行されなければなりません。</p> <p>地方自治体の火事防止事務官は、この許可証を発行できません。</p>
<p>焼却炉を使うことはできますか？</p> 	<p>はい</p> <p>ただし、次の場合に限りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 焼却炉の使用の条件を規定、制限または禁止するすべての法律について地方自治体に確認する (例、スモッグ警告発令日、特定の地域や期間における禁止など) 2. さらに、次の要件を満たしている： <ul style="list-style-type: none"> ✓ 焼却炉内で効果的に火が封じ込められている ✓ 風速が10kphを超えていない ✓ 焼却炉の四方3メートル以内から可燃性の物質が完全に除去されている ✓ 火の燃焼中に常に、消火できるほど十分な水が供給されている ✓ 点火している間常時そばに付いている人がおり、消火できる能力と手段を備えている ✓ 人が立ち去る前に完全に消火されている。 	<p>いいえ</p> <p>Total Fire Ban Days (火気厳禁日) には、焼却炉の使用は禁止されています。</p>



できますか、それともできませんか？

2012年8月更新



できますか、それともできませんか？	Fire Danger Period (火事危険期間)	Total Fire Ban Days (火気厳禁日)
<p>農作物、草、低木、雑草、やぶまたはその他の植物から9メートル以内の場所で、自走式の農業機械、トラクター、スラッシャー、掘削機、または道路工事用の建設機械などの熱エンジンで推進される機械を使用できますか？</p> 	<p>はい</p> <p>ただし次の場合に限りです。</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 火事を発生させるおそれがある故障や機械的な欠陥がない✓ 動作している火の粉防止器が備え付けられている（ターボチャージャーまたは排気吸引機付き空気清浄機を備えていない場合）✓ 次のいずれかで構成される火気抑制装置が備え付けられている：<ul style="list-style-type: none">➤ 正常に動作し、水が完全に補給され、最低でも9リットルの水を収容できる背負い噴射器最低1台➤ 正常に動作し、水が完全に補給され、正しい圧力が維持されている、最低でも9リットルの水を収容できる消火器（蓄圧）最低1台。 <p>上記に記載される火の粉防止器、背負い噴射器および消火器は、該当するオーストラリアの基準に準拠していなければならないことに注意してください。</p>	<p>はい</p> <p>Fire Danger Period (火事危険期間)には使用できません。</p> <p>ただし、火事が発生するリスクが非常に高いため、可能であればこの作業を延期してください。</p>

どうやって許可証を申請できますか？

cfa.vic.gov.auから申請用紙をダウンロードできます。または、地元のCFA地域本部に連絡して、申請用紙を郵送してもらうこともできます。CFA地域本部の連絡先情報のリストはウェブサイトから入手するか、**(03) 9262 8444**に電話して要請できます。

都市圏火災地域で火を使用する許可が必要な場合は、MFBに**(03) 9662 2311**またはmfb.vic.gov.auから連絡できます。

私が住む地域での山火事に関する情報または計画された野焼きに関する情報をどのように入手できますか？

Victorian Bushfire Information Line まで**1800 240 667**に電話するか、National Relay Service (全国リレーサービス) **1800 555 677**を介して電話してください。

私の所有地を野焼きする計画をしています。どのようにして緊急サービスに知らせますか？

CFAまたは地方自治体の火事防止事務官により野焼きの許可証を得ている場合、**1800 668 511**まで電話して、Emergency Services Telecommunications Authorityに事前に通知する必要があります。

どのようにして火災を通報しますか？

火災を通報するにはTriple Zero (**000**)をダイヤルしてください。

発行者：CFA

